



The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ2024年 10月報

会 長	中川典幸	副 会 長	佐々木絹子
書 記	小幡忠弘	会 計	吉田一恵
メ ネット	会長	担当職員	吉永肇子

- 国際会長主題 「Together for a better world -良い世界のために、共に-」
- アジア太平洋地域会長主題 「大きなインパクトを起こそう」
- 東日本区理事主題 「ワイズの方向性を見極める」
- 北東部長主題 「ユースと共に活動する一年に」
- クラブ会長主題 「活動の活性化を図る一年に」

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町 9 番 7 号 仙台YMCA内
仙台クラブ Facebook: <https://www.facebook.com/sendaiys/>



<今月の聖句>

そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のための働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」

マタイによる福音書 第9章 37節～38節

10月の巻頭言 「からっぽが いい」 吉田一恵

「からっぽが いい」著者 垣見一雅氏「通称 OK バジ (おじいちゃん)」の標題です。便箋に印刷されていた詩より

からっぽがいい 時もからっぽ 頭もからっぽ 箱の中もからっぽ
からっぽになると 心は自由 風のように自由

今は、「月に1冊も本を読まない人」6割とか、どの世代も進む読書離れ、恥ずかしながらもその中の一人の私が時間を忘れて読んだ1冊です。

OK バジ氏がネパールの山奥をリッカー一つで年間 200 日以上村々を歩き続け、支援活動の 25 年間の日々の様子とその歳月で生まれた言葉の数々等が綴られていました。

すべてが揃っているのに薄い幸福感。ほとんど何もないのに濃い幸福感。幸せにはあまり多くはいらぬ。「からっぽが いい」は OK バジの生きるための言葉とのこと。それは「何もかもある」私達に多くを語りかけてくれているような気がしました。

これから記載する OK バジ氏からのメッセージを心にワイズの活動を続けたいと思います。

- ・「ありがとう」「おかげさま」「もったいない」をかわして生きれば、仲良くくらししていけるかもしれない。うまくいった支援の背後には、いつも相互感謝と相思相愛が感じられる。
- ・ちいさなことに感謝できる人間はそのぶん人生を楽しめる。
- ・支援にはよい人間関係をつくるのがたいせつ「あるもので、今から、ここから、自分から」これが支援の一步だろうか？



・すべて足元、目の前の問題を片付けることから支援が始まる。支援を難しく考えず、できることを、できるときに、できる人がすれば、何かが生まれる。

年間 200 日以上、村々を巡る草の根活動に共感し、支援する団体・個人の数 は 200 以上、毎年 1 回日本へ帰国し、支援者へ報告を行っていて、今年で 30 回になります。

仙台ワイズメンズクラブのメネト支援活動で OK バジ氏を介して、年 100 個の布風船をネパールの子ども達に送り続けています。

10月の例会	
日時	10月19日(火) 10:30 ~
会場	佐々木絹子亭
内容	収穫感謝例会
担当	今澤・小幡
司会	三上
食前感謝	佐々木

9月 日例会報告	
在籍者	10名
出席者	8名
メイキャップ	0名
ゲスト・ピジター	0名
メネット・コメント	0名
出席率	80%
ニコニコ	7,000円

私の思い出

私の思い出ということで書かせていただきます

様々のご縁をいただきまして楽しい時間を色々経験させていただきました。クラシックカーとの出会いもその一つです。知人の推薦というか強制というか古い車を買わせていただきました。その仲間たちと（ツールドみちのく）というイベントに何度か参加させていただきました。



古い車で岩手の中央から海辺まで二日間地図を頼りに走り切ることで地域の活性も生み出すというイベントでした。



まちまちで歓声を送ってくれる人たちの中を走るというのはあまり経験がなく楽しいものでした。同行してくれた家族も楽しみながらいろいろな街を走る貴重な

体験をしてくれたと思います。時折仲間と走りに行くこともありましたが

いつでも楽しく過ごせる素敵な仲間たちとつながれていることに感謝します。これからも皆様とのご縁を大切に過ごしていきたいと思ひます。



9月例会報告

期日 9月17日(火) 18:30~20:20 会場 仙台 YMCA 2023 教室

出席 佐々木、吉田、今澤、三上、小幡、高松、中川、吉永

中川会長より、緊急の仕事が入ったため例会への参加が遅れるとの連絡があり、会長の到着を待ち例会の開催となった。司会は三上雅敏さんであった。

1. 開会点鐘・・・中川会長による開会点鐘が行われた。
2. 今月の聖句・・・司会の三上さんより、コヘレトの言葉第3章 1節～9節が朗読された。
3. ワイズソング・ワイズの信条・・・参加者8名の中、細やかに元気にワイズソングの合唱とワイズの信条の宣誓があった。

4. 会長挨拶・・・中川会長より、「ここしばらく涼しくなったと思ったら暑い一日になりました。皆さん体調をくずさないようにお気を付けください。宮城県では手足口病が流行っている。手足口病にはアルコールは効かないのでご注意ください。今日は、次第に協議という形でいろいろ載っていますので、よろしく願いいたします。」との挨拶があった。

5. 食前感謝・食事・・・高松会員により食前感謝が行われ、佐々木副会長調達の生協のお弁当をいただきました。洋風のお弁当と和風の弁当をそれぞれおいしくいただきました。会食中、前回の納涼例会のBBQの話となり、とても楽しく過ごせて、お腹がいっぱいになったとみなさん お気に召していただいたようでした。

6. 協議

(1) チャリティーラン・・・中川会長より、9月23日(土・祝)9時受付開始、9時30分開会式、午前10時競技開始、14時閉会予定、西公園にて仙台YMCAインターナショナル・チャリティーランが開催されること、当クラブより1チーム参加(支援金30,000円)で登録している旨の報告あり。続けて、当日は開会式までにお越しいただきたいこと、応援に来場いただける方は是非お願いしたいとことを確認した。また、ボランティアランナーにお昼ご飯ぐらい出したらどうかという意見があったが、仙台ワイズのチームはボランティアランナーが走るようになることになるため、直前にならないとわからず難しいということになり今回は見送ることとした。来年はアイデアを早い段階で委員会に提案することとした。



(2) チャリティゴルフ・・・吉田会員より、本日、支援金10,000円を事務局に預けた。支援内容を決定したいとの報告があった。担当者と相談の上、望む支援内容とすることを確認した。仙台ワイズからは永井さんが参加されるとのことでした。吉永担当職員からぜひ参加してくださいとのお願いがあった。



(3) EMC(クラブ増強・新会員勧誘)について・・・三上会員より、全国的な問題で、若い人たちが入らない。プログラムの内容が変わってきているなど会員増強が難しくなっている。今の仙台ワイズのプログラムでは若い人を誘いにくい。だが、どんなプログラムをしたら良いのかわからない。中川会長からは別紙により、サポートファンドの説明があった。東日本区が財政的に苦しい状況になっている。今回のサポートファンドは何か次への財政的持久力を維持する必要から提案されている。仙台ワイズとしては、サポートファンドへの拠出はしない。個人としてのサポートファンドはおまかせします。赤字の最大の理由は為替上の問題で、アジアエリアに納める会費が増額したためということであった。また、中川会長より次次期東日本区大会を石巻で行いたい旨の提案があったが、石巻広域ワイズメンズクラブのなかで意見が一致していない場面があったので、まずは石巻広域ワイズで意見を一致するのが最初だと思う。まだ、開催場所は決定していないと報告があった。



(4) 10月例会・・・日にちは未定。芋煮例会を「収穫感謝例会」として開催することとし、協力者、職員を招待し(呼びかけ担当制)。なお、他ワイズには呼びかけない。①ベニーランド確認 ②佐々木絹子さん宅

まず、吉田会員にベニーランドが芋煮会を開催しているか確認することとした。



(5) YMCA クリスマス実行委員長選出の件・・・長い協議の結果、佐々木絹子会員が選出されました。

7. 連絡報告・・・一恵さんより別紙により、OK バジさんの2024年度の事業としてすでに決定しているプロジェクトである小規模灌漑用水路、飲料水、ダル茶キャンパスの図書館の完成、既存の建物の屋上にトラストと呼んでいる鉄骨を組みトタンを張りホールを建設するプロジェクト、女性グループによるヤギまたは豚の飼育のための資金援助等の紹介があった。吉永担当職員から巻頭言等に使用する写真を撮らせてくださいとのお願いがあった。高松会員より、泉ヶ岳の南側の福岡という土地を購入し、野外保育場を整備

していると報告があった。

小幡会員からステップⅡ研修に参加するために9月25日から11月29日まで行ってきますと報告があった。

8. 誕生祝い・・・吉永さん：9月15日のお誕生日おめでとうございます。

9. ニコニコ・・・7,000円

10. 閉会挨拶・・・佐々木副会長より、「涙と笑いあり引き続き頑張っていきましょう」との挨拶と感謝があった。

11. 閉会点鐘・・・中川会長により閉会点鐘があった。

司会の三上さんの進行力により、定刻20時30分に無事閉会となりました。（文責：小幡）

10月の強調月間：ASF アレキサンダー奨学基金

YMCAへの私たちの思いを込めて

10月はアレキサンダー奨学金（ASF）の強調月間です。この機会にASFのことをもっと良く知っていただき、このプログラムへの皆さまの一層のご支援をお願いいたします。ASFは、ワイズメンズクラブ国際協会の創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の志を受け継いで、彼の名前に因んで、1954年に設立されました。以来68年間、ASFは、主にYMCAスタッフやYMCAに繋がる青少年のための奨学金や研修プログラムを提供し、世界各地のYMCAを財政的に支援してきました。ASFは、私たちのYMCAとの密接な関係の証しです。東日本区を含め、各区でASFのために集められた献金の30%は、国際ASF献金として国際本部に送られます。このお金は、世界YMCA同盟と協議の上、世界レベルの運動の特定の目的のためにYMCAに寄付されることになっています。近年では、毎年10,000スイスフラン（145万円）以上が国際ASF献金として送られてきています。この基金は、例えば、若いYMCA会員が地域社会の変革者となるための「チェンジエージェント」活動の支援、2019年8月にロンドンで開催されたYMCAの175周年記念式典の支援、新型コロナウイルスの流行によって困窮している世界各地のYMCAを支援するための「YMCA連帯基金」への拠出などに使用されています。残りの70%は、各区で保持され、その地のYMCAスタッフやユースリーダーの研修、育成に活用されています。東日本区の皆さまのご支援に感謝申し上げるとともに、今年度、一層のご協力をお願い申し上げます。

（東日本区理事長通信より）

編集後記

街路樹の紅葉が美しい季節になってきました。朝、夕が涼しくなり秋の深まりを感じます。今年、手足口病、マイコプラズマ肺炎等の感染症が流行しています。季節の変わり目、皆さまの体調が支えられますようお祈りしております。 T.Y

